

## 燈火

陽射し無き夕暮は肩を冷やし  
青の世界

最初に点された家の灯は  
誰を迎えるためのものか

放浪う者よりも深い憧れに満ちた  
買物帰りの主婦の目線

駅の人込みの中で虚空にさ迷う  
足早に家路を急ぐ勤め人の目線

手応えも無くすれ違ふこれらは  
いつ、どこで、どう交わっているのか

(僕はいつのまにか  
ひどく大回りをしていたらしい)

あの家の中では何が暖めようとされ  
この家の中では何が育まれようとしているのだろう

そして、何が代償とされようとしているのか  
何が棄てられ続けようとしているのか

またひとつ、もうひとつ  
そして、さらにひとつ

灯りが点されてゆく  
何物かを迎え入れるために

(2000.1.17)